

Vol.  
**77**  
2023  
SUMMER

 山梨県の広報誌

# ふれあい FUREAI



Mt. FUJI

**10**  
th

富士山世界文化遺産  
登録10周年記念

The 10th anniversary of the inscription  
of the world heritage Fujisan



【巻頭】

令和5年度6月補正予算 豊かさ共創社会に向け加速！

# 豊かさ共創社会に向け加速!

長崎県政2期目初めての本格的政策予算となる今回の6月補正予算。キーワードは「豊かさ共創加速化予算」です。「豊かさ共創」とは、生活基盤、文化、教育、防災などあらゆる面で「豊かさをもれなく届けられるふるさと」「山梨を目指す面」であり、豊かさを量・質・面で築き、県民一人一人の幸福感を最大化するために取り組みを加速していきます。

一般会計補正予算の総額は、骨格的予算に肉付けするものとして過去最大規模の507億円。喫緊の課題である物価高騰対策を盛り込むとともに、「山梨発」で日本「初」となる取り組みを創出。さらに財政の健全化・持続可能性も確保しています。

新型コロナとの戦いが転換期を迎えた今「ふるさと強靱化」と「『開の国』づくり」を柱として「豊かさ共創社会」に向けアクセルを踏み込んでいきます。

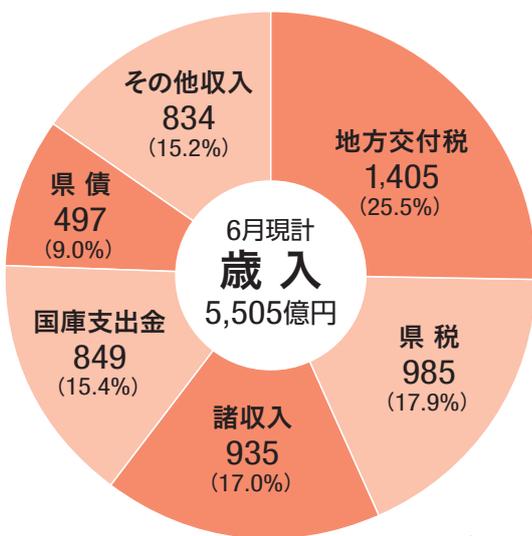


記者会見で令和5年度6月補正予算案を説明する長崎知事

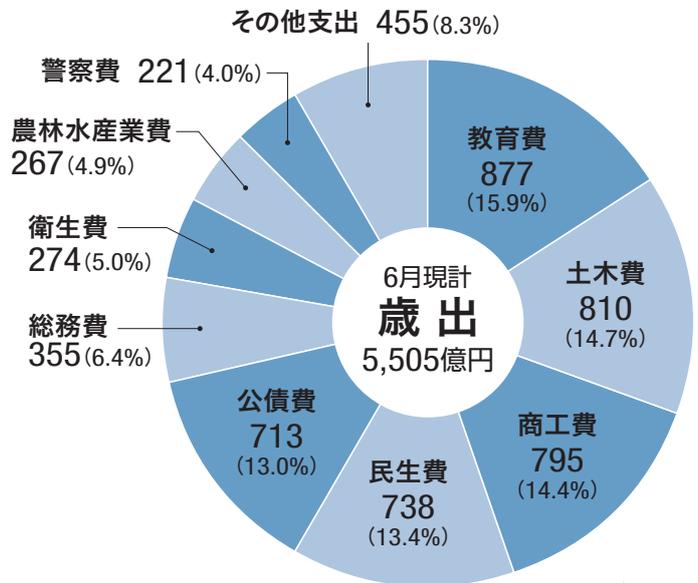
## 知事2期目の本格予算案 柱は「ふるさと強靱化」と「『開の国』づくり」

一般会計6月現計予算額 **5,505億円**

※当初予算などとの合計額



(単位:億円)



(単位:億円)

**地方交付税** 地方公共団体が一定の行政サービスを提供できるよう、財源が不足する団体に国が配分するお金

**県税** 県民税や事業税など、県に納められる税金

**諸収入** 県税の延滞金や預金利子、県からの貸付金の元利償還金など、他の収入科目に含まれない収入

**国庫支出金** 特定の事業の財源として国が交付するお金

**県債** 公共施設や道路の整備などの資金を調達するため、県が国や銀行などから長期にわたり借り入れるお金

**教育費** 県立学校の運営や整備などに使うお金

**土木費** 道路の整備や河川の改修などに使うお金

**商工費** 商業や工業の振興などに使うお金

**民生費** 社会福祉や児童福祉などの事業に使うお金

**公債費** 県債の返済に使うお金

**衛生費** 健康増進や疾病予防、環境保全などに使うお金

**農林水産業費** 農業、林業、水産業の振興などに使うお金

**警察費** 犯罪や交通事故の防止などに使うお金

## 予算のポイント

### 山梨の持つ可能性を実力に変える編成と配分

#### ポイント1

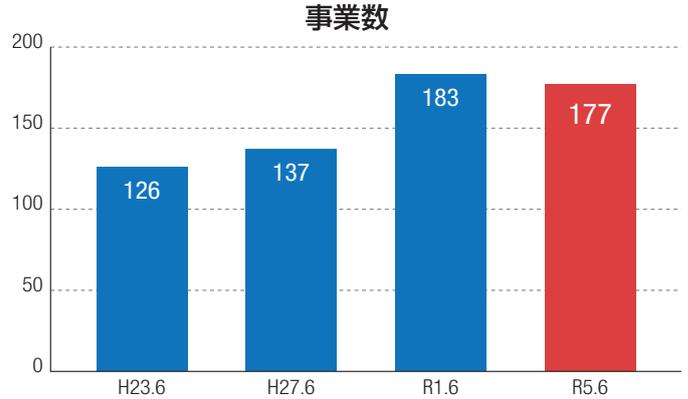
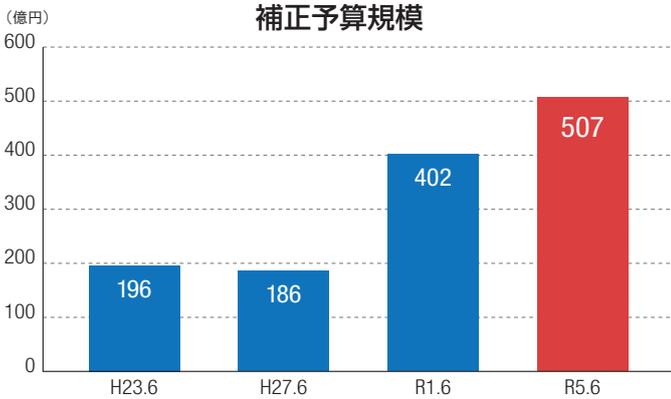
#### 「ふるさと強靱化」と「『開の国』づくり」に向けた豊かさ共創加速化予算

県民の皆さんの生活基盤を強く安心なものにする「ふるさと強靱化」。あらゆる可能性を取り込み、豊かさの基となる価値が創出される、全ての人に対して開かれた「『開の国』づくり」。この公約の早期実現を目指し、積極果敢な挑戦を強力に進めていきます。

#### ポイント2

#### 過去最大規模「507億円」の肉付け予算

コロナ危機の中にあっても本県は前進し続けてきました。これからも進むべき明確な「ふるさとの豊かさを創る道」を県民の皆さんと一緒に歩いていくために、物価高騰にも対応しながら必要かつ十分な予算、事業数になっています。



#### ポイント3

#### 山梨「発」で日本「初」の取り組みを複数創出

全国に先駆けてスタートした、施設の感染症予防対策であるグリーン・ゾーン認証制度は「山梨モデル」として各地に広がりました。今回の予算でも、全国に範を示す発想・発案で、日本では初めてとなる他に類を見ない先駆的な取り組みを創出しています。

##### ●子ども家庭福祉大学院運営費交付金

県立大学が設置する、児童虐待に対応する専門人材育成のための大学院開設に必要な経費を交付

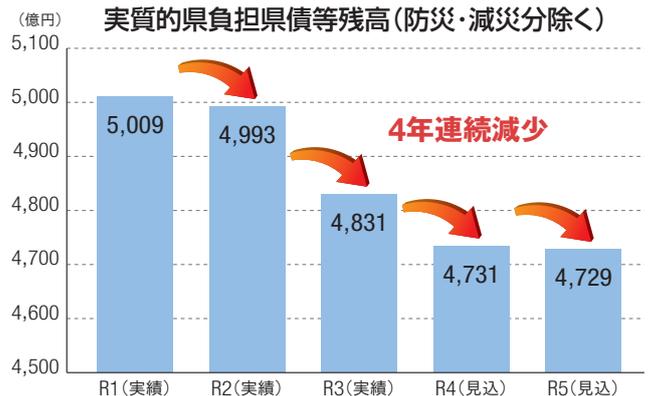
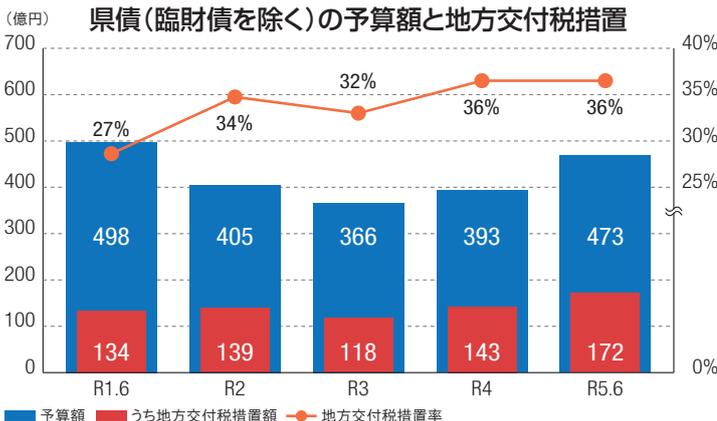
##### ●資金調達サポート事業費

認定ベンチャーキャピタルなどと協調したスタートアップ(新興企業)への出資

#### ポイント4

#### 財政の健全性・持続可能性の確保

公約を実現する攻めの予算である一方で守りも重視し、健全な財政の構築と将来にわたり安定した財政基盤を確実なものとする取り組みも継続します。県の借金である県債予算のうち、国から交付税で措置される割合は昨年度同様の水準を維持するとともに、実質的に県が負担することになる県債残高(防災・減災分除く)については、4年連続で減少しています。



# 県内経済や県民の生活も 強く安心できる社会へ

豊かさ・幸せへの道を歩むための土台は、県民の自由な選択を妨げる要因を取り除いていくことです。自然災害や感染症はもちろん、物価高騰など社会情勢の変化にも強く、さらには子育て・教育、医療・福祉など全ての社会基盤をさらに確固としたものにすべく取り組みます。本県で生活する県民が誰一人取り残されることなく、それぞれの能力をいかに発揮し挑戦できる土台作りをしていきます。

## 成長分野への進出で 企業の体質を強くする



企業の強みを生かして医療機器分野へ進出

医療機器関連産業を本県に集積させる「メディカル・デバイス・コリドー構想」。今年度から高度化・裾野拡大・海外展開の3つの軸を新たに掲げ、構想実現に向け取り組みを加速します。新機軸ごとに専門コーディネーターを配置し、企業に対するきめ細かな伴走支援体制を強化。また、海

外展開への活動戦略を策定します。

医療機器市場の成長力を県内企業の伸びる力として取り込み、雇用の創出など県民の皆さんの豊かな生活につなげます。

## 働き手のスキルアップから 企業収益増→賃金増の好循環へ

あらゆる働き手の学び直し（リスキリング）を一気通貫でサポートするための基盤「キャリアアップ・ユニバーシティ」を構築します。

地域経済を持続的に成長させるためには、働き手一人一人の能力を高めていくことが大切です。

働き手のスキルアップが企業の成長を押し進め、働き手の賃金アップへとつながる。こうした「豊かさ共創の好循環」により、県民の皆さんの豊かさへとつなげていきます。

## 多くの旅行者から選ばれる グリーン・ゾーンプレミアム認証

### グリーン・ゾーンプレミアム認証

「グリーン・ゾーンプレミアム認証制度」に国際的な衛生機関からお墨付きをもらい、国内外で「安心な観光地・山梨」の認知度を高めます。

コロナ禍にあっても独自の取り組みで日本中に「山梨モデル」を普及させたグリーン・ゾーン認証制度。さらにワンランク上の感染症対策を講じた施設を認証する制度として始まったのが「グリーン・ゾーンプレミアム認証制度」です。この認証を受けるための基準の一部を、国際衛生基準（WHSR）と同様の基準と認めてもらうことで、施設の付加価値が高まります。より上質な旅行体験をしたい人々から選ばれる地となることで、地域経済の活性化が期待できます。



認証施設に交付される  
グリーン・ゾーンプレミアム認証マーク

## 身近な医療機関でコロナ診療

幅広い医療機関が新型コロナウイルス

ルス感染症の診療に対応できるよう、新たに外来対応を開始する医療機関に対し医療機器などの整備費用を助成します。

県は、診療所、クリニックなど、より身近な医療機関で新型コロナウイルス感染症の診療ができるよう取り組みを進めてきました。今後も新たに外来対応医療機関を確保することで、県民の皆さんが感染症に対して安心して生活できる環境を整えていきます。

## 救急車を呼ぶ？病院へ行く？に 医師や看護師などが相談対応

急な病気やけがで救急車を呼ぶべきか迷ったときに電話で相談できる窓口を設置します。

本県の救急出動件数に対する軽症者の割合は、令和元年で45・5%、令和2年で43・3%と、約半数を占めています。また、救急出動件数は年々増加傾向にあり、救急隊への通報から現場到着までの時間が長くなるなどの影響が生じています。

電話相談は、医師や看護師などが病気やけがの症状を把握した上で、救急要請の必要性の有無に加え、診療科目の案内や応急手当の方法について助言するものです。限りある救急車両や隊員などの救急資源を真に

必要な方のために確保し、県民の皆さんの安全と安心につなげます。



### 物価高騰の影響が大きい 福祉施設などを支援

医療機関、高齢者施設、障害者施設、保育施設などの光熱費や食費を支援します。

国が決める価格（公定価格）で収入が算定されるこれらの施設は、物価高騰分を転嫁できず厳しい運営状況となっています。物価高騰の影響が長期化する中、来年度まで公定価格が変更されないため、早急な支援が必要です。

県が迅速に支援することによって、全ての県民にとってなくてはならない生活インフラを守ります。

### 日本初の大学院を山梨から

児童虐待への対応で中心的な役割を担う人材を養成する大学院を、県立大学に設置します。児童虐待問題に特化した大学院は日本初となります。

近年、全国的に児童虐待の対応件数が増加傾向にあり、また、虐待の背景にある問題も多様化しているため、担当する職員の専門性を高めることが重要です。

大学院を修了した方が、在学中に得たスキルを生かして困難な虐待事案にも的確に対応することで、本県そして全国の未来を担う子どもを守ります。

### 山梨県民総DXを目指して

デジタル技術を活用して生活をより良いものに変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）の意識を県民の中に醸成するため、中小企業や自治会、学校などで、講座・研修会を実施します。また、宿泊業の人手不足に対応するためのセミナー開催や専門家の派遣、中高生・大学生に対しデジタル技術を活用して地域の課題を解決する学び（PBL）の機会を提供していきます。

県民の皆さんがデジタル技術に慣れ親しむことで、業務の効率化や生活の利便性向上など、さまざまな恩恵を受けられるようになります。

### 妊娠・出産を望む方を支援

不妊治療を受ける方の経済的負担を軽減するため「先進医療」の費用

を助成します。

令和4年4月以降、体外受精などの治療も保険適用となりました。昨年度に県が実施した「不妊治療に関する実態調査」において、67・1%の方が保険の適用されない治療に対する助成を希望していることが分かりました。

その中でも、先進医療は妊娠率を高めるといわれており、経済的負担を理由に高額な先進医療を諦めることのないよう県が支援し、誰もが安心して妊娠の望みをかなえられる環境を整えていきます。

### 子どもの健やかな成長のために

子ども食堂へ生鮮食料品などが定期的に寄付されるよう、寄付の受け入れと保管ができる場所の整備に對し助成します。

子ども食堂に寄付される食材は加工食品が多く、野菜や果物などの生鮮食料品は少ない状況ですが、道の駅やJA直売所などに大型冷蔵庫や倉庫が設置されることで、農家から余剰となった生鮮食料品を安定的に受け入れることが可能となります。

子ども食堂の充実を通じて、県内の全ての子どもが健やかに成長できる社会を目指します。

### 国籍や民族の違いを超えて 誰もが活躍できる社会へ

本県在住の外国人と地域住民とが互いの文化を理解し、多様な価値観を認め合うことができる多文化共生社会を実現するため、交流イベントを開催します。準備段階から日本人と外国人が協働することで交流を促進し、信頼感や自己肯定感の醸成を図ります。また、外国人が安心して医療機関を受診できるよう、電話医療通訳サービスの利用促進に向けた試行的な取り組みを行います。

国籍、性別、年齢や障害の有無などを問わず、多彩な人材が集うことで「集合知」が形成され、さまざまなイノベーションが導かれる「共生社会やまなし」を目指していきます。



「えびす講まつり」で本県在住の外国人と地域住民とが交流した(令和4年11月)

# 「甲斐の国」を「開の国」へ

それぞれの幸せに向かって自分の道を選び、人生を歩んでいく。そんな県民の皆さんの豊かさ獲得に向けて、できる限り多くの、そして豊かな選択肢を提供します。

県が目指す「開の国」では、交通ネットワークの整備はもちろん、多様なバックグラウンドを持つ人々が山梨に集い、それぞれの個性が目一杯発揮できる、多様性に富んだ開かれた社会を築きます。有形・無形の道を開き、個性を尊重する社会をつくることで、本県には多様な選択肢が生まれ、県民の皆さんはその中から、それぞれの幸せと豊かさを追求できるようにしていきます。

## 「海なし県が世界への道を開く」

人と物が活発に行き交う地域を目指し、空港の整備や空飛ぶクルマの活用について、実現の可能性を研究します。

本県は周囲を山に囲まれ、港湾も空港もありません。しかし、東京や名古屋がぐっと近くなるリニア中央新幹線の開業を見据え、世界への扉、そして県内の交通ネットワークを築いていくことが重要です。

新たな交通手段の活用も検討する中で、大都市と直結するリニア中央新幹線の効果を最大限発揮させ、国内外を問わず交流を深化・拡大するとともに、県民の皆さんの利便性の向上につなげていきます。

## 「富士北麓を世界で類を見ない先進的な地域へ」

上質な観光地に最先端の首都圏機能を融合させ、新たな時代に求められる世界に類を見ない先進的の地域を目指し富士五湖自然首都圏構想の実現に向け、昨年12月に設立した「富士五湖自然首都圏フォーラム」の参画企業と共に具体的な取り組みを加速させていきます。

富士五湖地域が自然首都圏へと発展する過程で、国内外との交流が活発になり、さまざまな背景を持つ人々が集まることでしょう。個性を尊重し合う多様な社会へ、そして多様な知恵と活動が豊かさを生み続ける社会への進化を、富士五湖地域が先導することが期待できます。

## 地域の強みを生かした教育で子どもの可能性を最大限に



明るい未来を創る山梨の子ども

人口規模が小さく、小学校25人学級導入の恩恵を受けられない町村が実施する特色ある教育活動を支援します。

学年の壁を超えた合同授業、自らの学習プランに基づいて学ぶ授業、外国語で交流を行う授業、山村留学の受け入れなど、小規模な学校ならではの教育活動により、課題解決能力やコミュニケーション力、発信力など、子どもが持つさまざまな資質・能力を最大限に伸ばします。

25人学級と併せて県全体の教育の充実を図ることで、山梨で育った子どもが山梨の発展に貢献したり、日本中、世界中で活躍したりする、そのような人材を育て上げる環境づくりを進めていきます。

## 全国初！県が協調出資しスタートアップの成長を後押し

まだ世の中のない新しいアイデアをビジネスとして市場を開拓する企業をスタートアップと呼びます。スタートアップは新たな産業を生み出し、雇用を増やし、今ある企業の新たな挑戦にもつながる地域活性化の起爆剤です。

スタートアップの創出や県外からの誘致・定着を図るため、県青少年センター（甲府市）旧本館を改修し、専門的な支援やコミュニティを形成する支援拠点を整備します。さらに、資金調達を支援するため、ベンチャーキャピタルなどと連携し、協調してスタートアップに出資する、全国初の取り組みを始めます。

こうした取り組みにより、県内にスタートアップを呼び込み、県民の皆さんの所得向上や仕事の選択肢拡大につなげていきます。



県内ではスタートアップによる新たな挑戦が次々と生まれている

選ばれる産地へ  
生産から販売まで支援

「山梨県産のモノだから、少し高くても買ってみようかな」全国の消費者にそう言ってもらえるよう、県内の農畜水産物の生産・流通・販売のレベルアップに取り組みます。

生産面では、ブドウのオリジナル品種「甲斐ベリー7」などの生産拡大を加速するため、苗木の生産ほ場を整備します。また、モモやスモモについては、優良品種への改植を支援することで高品質化を図り、産地競争力を強化します。流通面では、高品質な果実を出荷するため、モモの共選施設へ高性能光センサーを導入し、販売面では、高品質なさまざまなブランドをより強力に打ち出します。

こうした取り組みにより、生産者の所得向上へつなげていきます。



生産・流通・販売の三位一体の取り組みでブランド力を強化

林業を魅力ある産業へ



森林資源の有効活用にも取り組む

山梨の林業を支える森林組合の経営強化を目指します。

県土の約8割を占める緑豊かな森。この半分を占める人工林の大部分が木材として利用可能な時期を迎えており、資源の有効活用が求められています。一方、県内の森林組合の多くは事業規模が小さく、木を伐採して収益を確保していく十分な力がありません。

このため、組合の経営状況などの調査や分析を行い、民間企業とタッグを組むなど最適なビジネスモデルを提案します。

こうした取り組みにより林業を活性化させ、雇用の拡大や林業で働く皆さんの所得向上につなげていきます。

洗練されたデザインで  
地場産品をさらに上質に

アートの高いデザインを活用した地場産品の高付加価値化を進めるため、「県立美術館附属デザインセンター」の設置を検討します。

ワイン、ジュエリー、テキスタイル（織物）など、本県にある多様な地場産業を今後さらに盛り上げていくためには、国内外の消費者の手に取ってもらうよう、よりアートの高いデザインを備えた商品を開発する必要があります。そこで、アートとデザインを結び付けるデザインセンターの整備に向けて、現状や課題を整理し、必要な機能などの調査を行います。デザインへの取り組みを強化することで、美術館の魅力や機能をさらに向上させるとともに、産業振興につなげていきます。



アートの力で洗練された地場産品へ

スポーツの可能性



スポーツと他産業を結び付け、人を呼び込む

障害者がスポーツに参加しやすい環境をつくるため、パラスポーツの拠点を整備します。また、気軽に運動を楽しめるよう、身近な公園に簡易的な健康器具を設置し、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めていきます。さらに、スポーツで県外から人を呼び込むため、観光などの他の産業と連携し、収益を生み出す仕組みづくりも検討していきます。スポーツは日常生活に活力をもたらすだけでなく、地域づくりや観光振興まで、ヒト・モノ・コト・カネを呼び込む身近な原動力です。スポーツ振興は新たなビジネスを呼び込み、産業の活性化や雇用拡大が期待できます。



浮世絵師・葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景 凱風快晴」(山梨県立博物館蔵)

## 世界文化遺産登録10周年！ 富士山の普遍的価値を未来へ

日本の象徴である富士山。広くなだらかな裾野を有する独立峰は、どこから眺めても整った姿を見せてくれます。併せて、季節や時間、気象条件などによってさまざまな表情も持ち、今もなお多くの人々を魅了し続けています。

この美しい富士山が世界文化遺産に登録されてから今年で10年を迎えました。世界に認められた富士山の価値を未来へと引き継ぐため、県は今後も関係者と協力して保全のための取り組みを進めていきます。

### 「世界に認められた日本一の山

標高3776メートル、日本でも高い山、富士山。しかし、ただ標高が高いだけではありません。雄大な姿と頻繁に繰り返された噴火によって、古くから多くの人が畏敬の念を抱き、やがて「信仰の対象」となっていました。また、溶岩などの噴出物で少しずつ裾野を広げることでつくられた美しい円すい形の姿は、国内外の芸術家の創作意欲をかき立て、さまざまな作品を生み出す「芸術の源泉」として大きな影響を与えてきました。人と自然が、信仰と芸術を通して共生する姿は、富士山が持つ大きな特徴といえます。

ユネスコ世界遺産委員会はこうした文化的な価値を認め、世界遺産の

登録を決定しました。私たち日本人にとって大切な富士山は、世界が守るべきかけがえのない宝となったのです。

### 順風満帆ではなかった 登録までの道のり

富士山が世界遺産登録に至るまでにはいくつものハードルがありました。

平成4年に「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)」が国会で批准されると、自然保護グループらで構成される団体が、富士山の世界自然遺産登録を目指した運動を開始。山梨県においても、静岡県と共に、富士山を後世に引き継いでいく決意を示した「富士山憲章」を定め、世界遺産登録への動きを加速していきました。

## 富士山憲章

- 一 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 一 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 一 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 一 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 一 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に永く継承しよう。

官民一体となった活動が実を結び、平成15年には国の諮問機関「世界遺産条約特別委員会」が世界自然遺産の候補17地域の中に富士山を選定しました。ところが、国の検討会で選考した結果、最終候補地から落選。ごみの投棄やし尿の垂れ流し、山麓部での開発などが壁となった可能性が指摘されました。

その2年後、今度は文化遺産での登録を目指して再始動。信仰と芸術の価値を前面に訴えることに。課題とされてきた環境問題は、関係団体や住民との清掃活動の実施や、登山者へのごみの持ち帰りの呼び掛け、環境配慮型トイレの計画的な整備などの対策を進めました。麓の開発は、地元関係者と意見交換を重ね、文化

財保護法による区域指定を受けることで厳格な土地利用の規制を導入することとしました。こうした間にも、ユネスコの審査が年々厳しくなり、国内の遺産候補の中で登録延期の決定が下された事例も出てきたことから、県は、登録を成功させるため慎重に慎重を重ねて作業を進めていきました。

そして、再挑戦から8年目の平成25年、度重なる登録目標時期の延期や数々の課題を乗り越え、ついに悲願の世界遺産登録が現実のものとなりました。国内の他の世界遺産に比べ異例のスピード登録であったともいわれています。

### 「より良い保全のために」

ユネスコは、世界遺産登録の決定に当たり、富士山保全の取り組みをさらに改善するための指摘・勧告を行いました。

その内容は、建築物の規制強化に関するものほか①資産の全体構想を策定すること②下方斜面の巡礼路を特定すること③上方登山道の収容力を研究し来訪者管理戦略を策定すること④上方登山道の保全手法を定めること⑤来訪者に対する情報提供戦略を策定すること⑥経過観察指標を拡充強化することです。

これを受けて県は、構成資産と緩衝地帯に対する開発制御や景観保全をするための条例を制定したほか、富士山に関する情報発信や保存管理の中心的な役割を担う「富士山世界

遺産センター」の設置、静岡県との協力による上方登山道の収容力の研究と適正な登山者数にすることを目指した対策など、あらゆる取り組みを実施してきました。



吉田口登山道



北口本宮富士浅間神社



御師住宅(旧外川家住宅)



船津胎内樹型



全部で25からなる構成資産の分布図

# 今もなお続く富士山への不法投棄

## 「環境面の改善は進んだが…」

世界遺産登録に向けた取り組みを進める中で、富士山の価値への理解や保全の対策も大きく前進しました。民間団体による清掃活動が実施されるようになり、登山者などへごみの持ち帰りを粘り強く呼び掛けていることで、富士山のごみを減らし、新たなごみを増やさない意識が浸透していきました。

また、山小屋などへの環境配慮型トイレの整備が完了し、かつての浸透流式トイレから垂れ流される汚物やトイレトペーパーによってできていた「白い川」と呼ばれる現象は今では見られなくなりました。

このように、世界の宝である富士山の環境は、近年、劇的に改善しました。

と断言したいところですが、実は、いまだにごみの投棄は続いているのです。

右下の写真は、二つとも今年の4月に撮影されたものです。ごみの状態から、最近捨てられたものであることが容易に想像できます。

さらに、山麓の林の中など人目に

つかない場所だけでなく、山頂付近の登山道でもさまざまにごみが捨てられています。食品の袋、手袋、タオルなどのほか、尿が入った袋、ペットボトルや、便とティッシュペーパーがそのまま放置されていることもあります。

## 「捨てるのも拾うのも同じ人間

不法投棄の未然防止や早期発見、拡大防止のため、監視員による巡回や監視カメラの設置などの対策を講じています。発生してしまったごみは、民間団体やボランティアの協力も得ながら回収が続いています。

しかし、捨てる人がいなければ、本来は拾う必要のないごみ。

ごみを捨てない、捨てさせないとの意識を醸成するため、県はさまざまな機会を通じて不法投棄の現状を伝え、美しい富士山を後世に残すために活動する人々の姿を紹介しています。また、富士山レンジャーによる巡回・監視や学校、企業・団体を対象とした環境教育も実施しています。こうした活動をさらに推進していきます。



東富士五湖道路、富士スバルラインなど、富士山麓の道路付近に投棄されたごみの数々(令和5年4月)

## オーバーツーリズムは富士山にも

### 「大量に押し寄せる車、バス、人

富士山はもともと観光地としての魅力が高く、多くの登山者、観光客が訪れていました。世界遺産登録に向けて注目が高まる中、国内外から訪れる人で以前にも増して賑わいを見せるようになり、登山道や山小屋の混雑、富士スバルラインの渋滞は一層深刻なものとなりました。観光地が持つ受け入れ能力以上に観光客が押し寄せる「オーバーツーリズム」といわれる現象が富士山にも起こっ



登山者や観光客で混雑する五合目駐車場(令和元年)



御来光を見るために山頂へ向かう多くの登山者(平成29年)

ていたのです。  
 オーバーツーリズムにより、自動車の排気ガスによる環境負荷や、多くの登山客の踏圧による登山道の劣化など、さまざまな影響が懸念されています。また、混雑によって自分のペースで登山できなかつたり、山小屋で休憩や宿泊ができなかつたりする登山者が生じます。  
 富士山が持つ資源の価値を下げ、登山する人々の満足度を上げられない今の状況のままでは、いずれ富士山の観光は衰退の一途をたどることになってしまいます。



五合目駐車場に向かう車やバスで渋滞する富士スパライン(平成28年)



## 「コロナ禍後のこれからが正念場

新型コロナウイルス感染症のまん延以降、社会情勢の変化とともに、観光を取り巻く環境も大きく変わりました。ソーシャルディスタンスを確保するための施設内配置などの感染防止対策は、コロナ禍後もゆとりのある環境で上質な時間を過ごしたい人々の大きなニーズとなってきました。

山小屋も就寝スペースを板やカーテンで仕切り、収容人数を制限するようにになりました。以前のように大勢の人が雑魚寝する窮屈な施設を求める人はいないでしょう。

昨年は新型コロナウイルスの影響を受け、富士吉田口登山道の登山者数はかつての最盛期の水準まで回復しませんでした。感染症法の位置付けが5類となつて初めての登山シーズンを迎える今年、開山期間中の山小屋の宿泊予約がほぼ埋まり、海外からの予約が3割近くを占めるという声も聞かれています。こうした状況の中、富士山の環境や資源を保全するために来訪者数をどのように適正にしていくのか、また、登山者など観光客の満足度をどのように上げるのか、早急な対策が必要となってきます。

県は平成28年から3年間、どれく

らの登山者が同時に入山できるかを調査・研究し「望ましい富士登山の在り方」やこれを実現するための指標を定めました。

この指標を実現するため、混雑予想などの情報提供を通じて登山者の分散を促したり、構成資産を巡るモデルコースの設定・周知により山麓への周遊を促進したりするなどの対策を実施しています。

富士山への来訪者数を適正化し、富士山の保全と、満足度の高い登山環境を整えることなどにより、持続可能な富士山観光を実現していきます。



下山する人らで渋滞する下江戸屋分岐付近(平成25年)



トイレを待つ登山者で行列する八合目山小屋(平成25年)

## 見つめ直す、富士山の価値 富士山を通して、それぞれの人生と向き合う

平成25年6月、富士山は世界遺産に登録され、私たちはその普遍的な価値を後世に継承する責任を負いました。これからもずっと、富士山が世界の宝であり続けるために、私たち一人一人が富士山について正しく知り、保全に向けた意識を持つことが大切です。

そんな富士山の世界遺産登録や保全活動に深く関わってきたお二人に、それぞれの立場から富士山の価値や保全の在り方などについて語っていただきました。

### 「富士山とともに歩んだ人生」

**近藤** 僕は地元富士吉田市の出身ですが、かつてはまったく富士山に興味がありませんでした。30歳の時に副業として登山ガイドを始めたことから徐々に富士山に魅せられたのです。

ヨーロッパアルプス山脈の麓の街で山岳観光を勉強する機会に恵まれ、大勢で頂上を目指すだけの富士山登山の在り方に疑問を抱き、35歳で登山ガイドとして起業を決意しました。

以来、富士山でエコツーリズム事業を展開し、これまで750回くらい登っています。



山対談

# 小田全宏

Zenko Oda

事業家・教育者



事業家・教育者

**小田 全宏**さん

認定NPO法人 富士山世界遺産国民会議運営委員長  
(株)ルネッサンス・ユニバーシティ代表取締役  
世界遺産登録運動に尽力

**小田** 私は富士山の世界遺産登録やその後の保全に関わる活動に20年以上携わってきました。  
平成4年に日本が世界遺産条約を批准した当初、富士山の「自然遺産登録」を目指す流れがありました。しかし、富士山は固有の生態系などの強みが少なく、さらに環境問題を抱えていたことから、登録基準に合っていないかったのです。そこで私は、富士講に代表される信仰や、浮世絵に描かれてきた富士山の芸術としての価値に着目し「文化遺産登録」を目標に掲げ、平成15年から活動を開始しました。  
それからさらに10年の歳月をかけて、富士山は「世界文化遺産」に登録されたのです。



平成25年6月22日、カンボジアの首都プノンペンで開かれた第37回世界遺産委員会で富士山の文化遺産登録が決定した。

**近藤** 世界遺産登録へと導いてくれた小田さんには、とても感謝しています。実は世界遺産登録が決まった時、登山ガイドとしては喜びよりも新たな課題が生じる事への不安の方が大きかったです。しかし、10年経った今は、世界の宝となったことでみんなの意識が富士山に向く良いきっかけになったと感じています。

### 「励まされ、前を向ける」

**小田** 私の考える富士山の価値。それは、例えば人生の岐路に立った時や辛い時に富士山を見ると心が落ち着き、よし、やろうと前を向ける。富士山を通して自分の人生と向き合うことができる、これが大きな価値だと思います。



と思います。

「次世代へつないでいくために」

日本では自然界の中に神が宿ると  
いう考えから宗教が形作られ、山岳  
信仰も生まれました。富士山を見る  
と人は手を合わせたくくなります。や  
はり富士山という自然物に「神聖」  
なものを見ているのだと思います。  
近藤さんにとって富士山はどのよ  
うな存在ですか。

近藤 そうですね、僕はいつも「両親  
親のような存在です」と答えています。  
す。いつも見ていてくれて、そして  
励ましてくれる懐の深い大きな存在  
です。麓を歩くだけでも、遠くから  
眺めるだけでも、富士山のものすご  
いパワーを感じるができます。  
また、富士講の時代から、人々は  
富士山と向き合い、自らの人生と重  
ね合わせてきました。それが脈々と  
受け継がれてきた歴史も素晴らしい

小田 一方で、富士山にはさまざま  
な課題もあります。価値を次世代へ  
守りつないでいくため、神聖な山で  
ある富士山にふさわしい環境の整備  
が必要だと思います。例えば五合目  
のごみ問題、発電機の騒音、臭いな  
ども解決しなければなりません。

富士山の自然や文化を守っていく  
ためには、今の状態のまま手を加え  
ないのではなく、しっかりしたコン  
セプトのもと適切な整備をし、本来  
の価値を感じられる場所に戻してい  
くことが必要ですね。

近藤 他には、オーバーツーリズム  
も課題ですね。現在の富士山は、昼  
前に五合目に集まり、早朝には頂上

で御来光を見るといったツアーが組  
まれることが多く、特定の場所・時  
間帯に人が集中しています。僕は曜  
日や時間などを工夫して「ずらし登  
山」を実践してきました。混雑時間  
帯を避けることで、お客様の感動度  
が高まります。また、前泊・後泊を  
促すことで、宿泊施設や観光施設を  
巡ることになり、地域への還元にも  
なると考えます。

アクセスマニュアルのつくり方  
で来訪者の分散を促すなど、本来の  
富士山の価値を体感してもらうため  
には、受け入れる側の姿勢も大切だ  
と思います。

「次の10年に向けて」

小田 これからの富士山のあるべき  
姿として、私は富士山を平和のシン

ボルにしたいと思っています。宗教  
も、西洋・東洋も関係なく、みんな  
が世界平和の祈りを捧げていくよう  
な場所に成り得ると思います。「一人  
一人が自分と出会い、みんなが平和  
を願う」。そこに富士山の神髄がある  
と私は考えます。

近藤 時代とともに富士山との関わ  
り方も変わりますから、価値を受け  
継いでいくためには、それに応じた  
人材を育てていくことが大切です。  
そのためにはたくさんの子どもに富  
士山のリアルな体験をしてほしい。  
富士山は日々投げかけてくるものが  
違うので、それを若者にキャッチし  
てもらいたいです。そして住んでい  
る人も、訪れた人もみんなが幸せを  
感じられるような「感幸(かんこう)」  
を目指していきたいです。



富士山エコツアーガイド

近藤 光一 さん

富士山登山学校ごうりき代表((株)合力代表取締役)

環境省自然公園指導員

富士山の麓から山頂までのエリアにて、少人数エコツアーの  
ガイド事業に従事。

ごうりきは環境省「エコツーリズム大賞」を受賞



提供: 合力

合力では、ずらし登山や少人数の構成により、富士山の魅  
力を感じられる感動度の高いツアーを提供している。

# 世界に類を見ない先進的な富士五湖地域へ

富士山の世界遺産登録の際、ユネスコから環境と観光の両立など解決すべき多くの課題が出され、県は地域と協力しながら一つ一つの課題に取り組んできました。しかし、オーバーツーリズムや環境負荷など、まだまだ多くの課題が残されています。この問題を根本的に解決し、上質で先進的な地域をつくるため、富士五湖地域では、持続可能な観光・地域の在り方を県内外の人や企業・組織が共に考え実行していく新たな取り組みが始まっています。

## 「自然首都圏に向けて

富士山の麓に、国内最高の観光リゾート地と最先端の首都圏機能を融合させた、世界に類を見ない先進的  
地域「自然首都圏」を創出しようと、  
県は昨年、富士五湖自然首都圏フォーラムを立ち上げました。フォーラムでは、芸術の街（アートシティ）の推進や環境に優しい次世代交通（グリーンモビリティ）の普及、学問・芸術・文化・スポーツの中心地（アカデミア）の促進などをテーマに5つのワーキンググループ（WG）を立ち上げ、地域住民や参画企業・組織と共に、議論を重ねています。このうち、アートシティの推進に向けた具体的な取り組みが始まっています。

## 「動き出したアートシティへの道

江戸時代、歌川広重や葛飾北斎をはじめ多くの画家に描かれてきた富士山。これらの絵画は海を渡り、ゴッホなど、当時のヨーロッパの画家たちに強いインパクトを与えました。それから100年以上経過した現在、富士山の麓に広がる富士五湖地域は最高の芸術や音楽を楽しめるアートシティに進化しようとしています。

4月、日本の芸術界の中心的な役割を担う公益社団法人日展が、このフォーラムに参画しました。日展は富士五湖地域の美術館やホテルと連携したアート作品の展示会等、多様な発表の場を設けることで、若手アーティストの育成などに取り組みしていきます。日展の参画によって、富士山の麓には日本中からアーティストが集まり、素晴らしい作品が次々と世界に発信されていくでしょう。

そして、住民は日常的に優れた芸術に触れ、日々の生活に彩りが加わることでしょ。

富士山が持つ芸術の源泉としての価値を後世に受け継ぎ、いつまでも芸術家に愛される地域となることを目指し、取り組んでいきます。

## 「イコモスが鳴らす警鐘

富士五湖自然首都圏フォーラムでは、環境に配慮した次世代交通についても検討を始めています。山梨県側の富士山五合目は、電気も水も引かれておらず、観光客の増加により自動車や自家発電機の排気ガスなどによる環境負荷がますます大きくなっています。また、信仰の山にふさわしい景観づくりも進んでいません。このままでは多くの方が期待するような富士山とは懸け離れる一方です。世界遺産登録の際にユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）からも、来訪者管理、環境保全、景観保全について改善を要請されており、地元自治体の責任として解決していかなければなりません。

こうした中、課題を一挙に解決に導く方法の一つとして検討を進めているのが「富士山登山鉄道構想」です。今ある道路の上にレールを敷き、次世代型の路面電車（LRT）を走



世界に類を見ない、上質で先進的な地域を目指す富士五湖地域

らせ、来訪者を五合目まで運びます。電気で走るため、排気ガスは出ません。LRT導入と同時にルートに沿って電気や上下水道などのインフラを整備すれば、五合目の自家発電による排気ガスの問題も解決でき、環境負荷が軽減されます。道路の渋滞はなくなり、まるでヨーロッパにある山岳鉄道のように、美しい景観も保てることでしょう。また、登山鉄道は来訪者数を適正に保つとともに、年間を通して運行することで、富士山の四季の魅力を堪能できることから、来訪者の満足度向上も期待できます。

**「構想をより具体的に」**

かつて何度も提唱されてきた富士山登山鉄道ですが、どれも具体的に欠け、実現には至りませんでした。

そこで県では、まず国内の有識者による検討会を開催し、LRT導入が富士山の環境保全に有効であり、安全性や快適性などの点で最も優れた交通手段であるとの結論に至りました。今後は、関係する自治体や地域住民の皆さん、富士山で働く皆さんとしっかりと議論を重ねていきます。

持続可能な富士山・富士五湖地域を実現するためにどうすべきなのか、皆さんも一緒に考えていきましょう。

＼もっと知りたい!／

# 富士山登山鉄道



富士山で暮らす  
オコジョ博士

## なぜ登山鉄道を検討しているの?

今の富士山は観光客が多すぎて世界遺産にふさわしくなっていないと言われているんだ。それに今は五合目に電気や上下水道がないので、自家発電機で重油を燃やして発電したり麓から自動車で水を運んだりしなければならないんだ。多すぎる観光客を減らして、このような環境負荷を少しでも軽くするためのアイデアとして登山鉄道を検討しているんだよ。

## LRTってなに?

LRTは新しいタイプの路面電車なんだ。富士山みたいな急な坂道も上れるし、当然排気ガスも出ないから、自然に優しい交通手段だね。今検討しているLRTは電線も必要ないタイプなので、富士山の景色も悪くならないよ。

## なぜバスではなくLRTなの?

富士山五合目に電気バス・水素バスを導入するにはたくさんの車両やドライバーが必要で、運行上の課題があるんだよ。それに上質な空間と特別な体験を提供できるLRTの方が観光資源としての魅力があるんだ。

## 神聖な富士山を傷付けるのでは?

今の富士山は多くの観光客や排気ガスなどで本来の神聖さが損なわれている状態なんだ。登山鉄道で観光客数や排気ガスの問題を解決して、信仰の山にふさわしい神聖さを取り戻そうとしているんだよ。それに、今ある道路の上に軌道を引くし、新しい電線も作らないから、自然破壊や環境破壊にはならないよ。自然を守るために自動車から鉄道に切り替えるのは、世界中で常識になっているんだ。

## 観光客や登山者が増えるのでは?

それは逆だよ。今は来訪者の多くが夏場に集中して押し寄せているのを、年間に分散させながら適正な数にしていく計画なんだ。バスやクルマと違って、鉄道なら運行回数や運行時間をうまく決めれば、お客さんの数をコントロールできるからね。

## 訪れる人にはどんないいことがあるの?

「信仰の対象」「芸術の源泉」としての富士山本来の価値を感じることができるし、乗車体験そのものが思い出に残り、満足度も向上するよ!

## 五合目はどうなるの?

今はコンクリートの人工物が目立つ状態だから、LRTの駅を建てるときに五合目全体が自然に溶け込んだ外観になる計画だよ。防災拠点としてシェルター機能も持たせて災害に備えるんだ。



富士山登山鉄道の終着駅となる新しい富士山五合目のイメージ図

リニューアルで楽しさUP!

## 愛宕山こどもの国

今年の4月にリニューアルオープン!「ふわふわドーム」や、クライム系・すべり台などが楽しめる「ぼくらの冒険トリデ」が大人気。障害の有無に関わらず遊ぶことができる「インクルーシブ遊具」も設置されています。公園の隣にある県立科学館にも立ち寄れば、わくわく気分は最高潮!



甲府市愛宕町358-1 ☎ 055-253-5933  
(自由広場)

- 定休日/年中無休
- 利用時間/9:00~17:00(7・8月は~18:00)
- 利用料金/無料



雨の日だって遊べちゃう!

## 笛吹川フルーツ公園

足元に水が流れる屋外のアクアスレチックはスリル満点!もし天気が悪くても、屋内施設の「わんぱくドーム」で元気いっぱい体を動かして遊べます。ドーム内のらせん階段を降りると「くだもの館」に直結し、フルーツの事をゲーム感覚で楽しく学ぶことができるなど、フルーツ王国やまなしを感じられる公園です。



山梨市江曾原1488 ☎ 0553-23-4101

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 〈アクアスレチック〉       | 〈わんぱくドーム〉           |
| ○利用期間/4月~10月     | ○定休日/年中無休           |
| ○定休日/期間中は無休      | ○利用時間/9:00~17:00    |
| ○利用時間/9:30~16:00 | (5月~10月の土日祝は~18:00) |
| ○利用料金/無料         | ○利用料金/無料            |



里山の自然を感じよう!

## 桂川ウェルネスパーク

傾斜のある地形を生かし自然との一体感がある公園は、特色の異なる3つのゾーンに分かれていて、遊んだり、農林業体験などのイベントに参加したり、芝生でピクニックをしたり、家族みんなで楽しい時間を過ごすことができます。園内の遊具は今年の3月にリニューアルが完了し、子どもに大人気!



大月市富浜町鳥沢8438 ☎ 0554-20-3080

- (西・中央・東ゾーン)
- 定休日/年中無休
  - 利用時間/終日開放
  - 利用料金/無料



山梨の魅力を再発見!

ハイクオリティ  
HIGH QUALITY YAMANASHI  
やまなし

子どもが楽しめるスポット特集  
みんなで遊ぼう!  
やまなしの公園

赤ちゃんも一緒に遊ぼう!

## SÖPÖ(清里丘の公園)

大きな窓の向こうに清里の自然が広がる屋内の遊び場。ハイハイ期の赤ちゃんも安心して遊べるスペースやおままごとコーナーのほか、子どもの想像力が広がる知育玩具も充実。アクティブに遊べるエリアもあり、多彩な遊び方が楽しめます。館内には温泉施設もあって大人もホッと癒されます。



北杜市高根町清里3545-5清里丘の公園ファミリーパーク内 ☎ 0551-48-5551 (子どもパラダイス広場SÖPÖ)

(料金一覧)

SÖPÖ+温泉		
大人 (中学生以上)	子ども (1歳~小学生)	0歳児
850円	800円	無料

- 定休日/4月~12月:無休、1月~3月:毎週火曜日定休
- 利用時間/9:00~16:00(GW・夏休み期間は~18:00)
- ※混雑状況によって時間や人数を制限する場合があります。



遊具の数は山梨県No.1!

## 御勅使南公園

東京ドーム7個分の広大な敷地にはバラエティに富んだ50個の遊具があります。夏季には水遊びも楽しめます。園内には四季折々のハーブが咲き、イベントもたくさん開催され一年を通じて楽しみがいっぱいです。健康増進を目的とした大人向けのストレッチ器具もあり、家族みんなで楽しく体を動かせる公園です。



南アルプス市六科1588-2 ☎ 055-285-4712

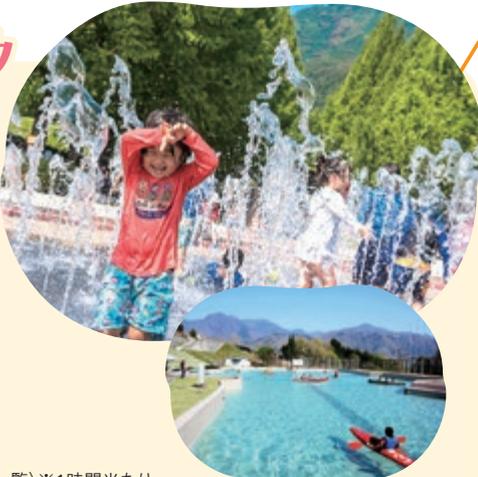
- (遊戯広場)
- 定休日/年中無休
- 利用時間/終日開放
- 利用料金/無料



全カ水遊び!

## 富士川クラフトパーク

東京ドーム約11個分の広大な公園内には大小のすべり台やネット遊具、ふわふわドーム、巨大迷路など楽しみが満載。夏場のオススメは、125個の穴からランダムに吹き上がる水と戯れることができる「大噴水」や子どもから大人まで楽しめる「カヌー体験」です。美しいバラ園をはじめ四季を彩る花々を愛でながら散歩するのも楽しいひとときです。



南巨摩郡身延町下山1597 ☎ 0556-62-5545

- (大噴水)
- 利用期間/4月下旬~10月中旬
- 定休日/期間中は無休
- 利用時間/9:30~16:00
- 利用料金/無料
- (カヌー場)
- 利用期間/4月~11月
- 定休日/水曜日 (祝日の場合は翌日)
- 利用時間/9:00~17:00 (最終受付16:00)
- 利用料金:別記参照

(料金一覧)※1時間当たり

施設使用料	一般	高校生	中学生以下
	230円	110円	50円
カヌー使用料	1人乗り	3人乗り	
	240円	360円	



豊かな自然環境に恵まれた山梨には、子どもから大人まで自然を体感しながら楽しめる公園がたくさんあります。遊びながら子どもの「生きる力」を育むことができる絶好のロケーションが待っています。さあ、みんなで行ってみよう!

ウェブでも山梨の魅力を発信中!

HIGH QUALITY YAMANASHI 山梨県の様々な魅力をお届けする県公式のブランド情報発信サイトです



クリエイティブな視点で  
山梨県産FSC認証材と山梨のものづくりを  
国内外に発信！

株式会社455studio専務取締役

山本 MIZUHO YAMAMOTO 瑞穂

次へとつなぐ  
若き先駆者たち  
[ネクスト]

FSC認証とは、持続可能な森林活用・保全を目的として  
「適切な森林管理」を認定する国際的な制度のこと。

## X made in YAMANA SHIで世界と渡り合う

高校卒業後、社会人経験やオーストラリア留学を経て祖父母が経営する製材所の業務に携わるようになった山本さん。建築資材として使用する木材を工務店などに卸す従来の製材所の業務には、さまざまな経験を積んだ山本さんだからこそ気付けた課題がありました。

「まずは給料が安くて驚きました。海外では、高品質なサービスを提供すれば、それに見合う対価が得られます。しかし、日本では高品質であっても常に安価なものが求められるため、ものづくりに関わる人の収入が増えないんです。日本のものづくりを守るためには、そこを変えていく必要があると考えました」

これらの課題を解決したいという思いと、自身が抱く夢が融合し、新たな道が見え始めます。

「私にはクリエイティブな仕事をやりたいという希望とハイブランドと仕事をしたいという夢がありました。ちょうど母が立ち上げた、内装や家具・小物の製造会社に籍を置くことになり、そこでゼロベースから自分のやりたいことに挑戦しようと思ったんです」

山梨県有林のFSC認証材を使用して、その価値を伝えたいという思いも加わり、活動を本格化させます。

「製材所と家具や小物をつくる会社をつなぎ、どこで生産されたFSC材なのか、どこの誰がつくった物なのか、伐採から製品になるまでの過程を明らかにすることで、製品の付加価値を高めました。弊社

の取扱製品には、made in YAMANA SHIと表示しています」

山本さんの取り組みは、イギリスなどのハイブランドや世界自然保護基金(WWF)からも高く評価され、オフアアが届くようになりました。また、国内の取引先も大都市圏の大手企業が多いそうです。

「従業員4人という小規模な会社が、世界的な企業・団体と大きな仕事ができるようになったのは、私が生まれ育った環境や、山梨の自然、そして関わってくださった皆さんのおかげです」

## X 森林教育や地域活性化にも取り組む

山本さんはFSC認証材を使うことだけがゴールではないと言います。

「私は木材を余すところなく使い切ることが環境に配慮することの『本質』だと考えています。そこで、森林を守ることや木の価値を生かす大切さを肌で感じてもらうための森林教育を企業向けに行っています。目の前で伐採された『命』が製材工場に運ばれ製品になるリアルな現場を知ってもらうことは、企業の環境意識を高め、林業の魅力を知ってもらうことにもつながっています」

他にも、商業施設の家具に地元の木材を使うなど地域活性化の取り組みも行い、活動の幅は広い。

最後に、同世代の山梨の若者に向けて「夢をかなえる道は一つではありません。ハイブランドのデザイナードになるとか、環境保全団体に就職するのも一つの方法だったかもしれません。でも、私のように新しい道を探りながら夢を実現することもできます」とメッセージを送ってくれました。



山本 瑞穂 さん

山梨県出身。  
株式会社455studio専務取締役。  
木製品の企画提案、企業のCSR活動のサポート、企業間マッチング、その他さまざまなコーディネートを手がけている。



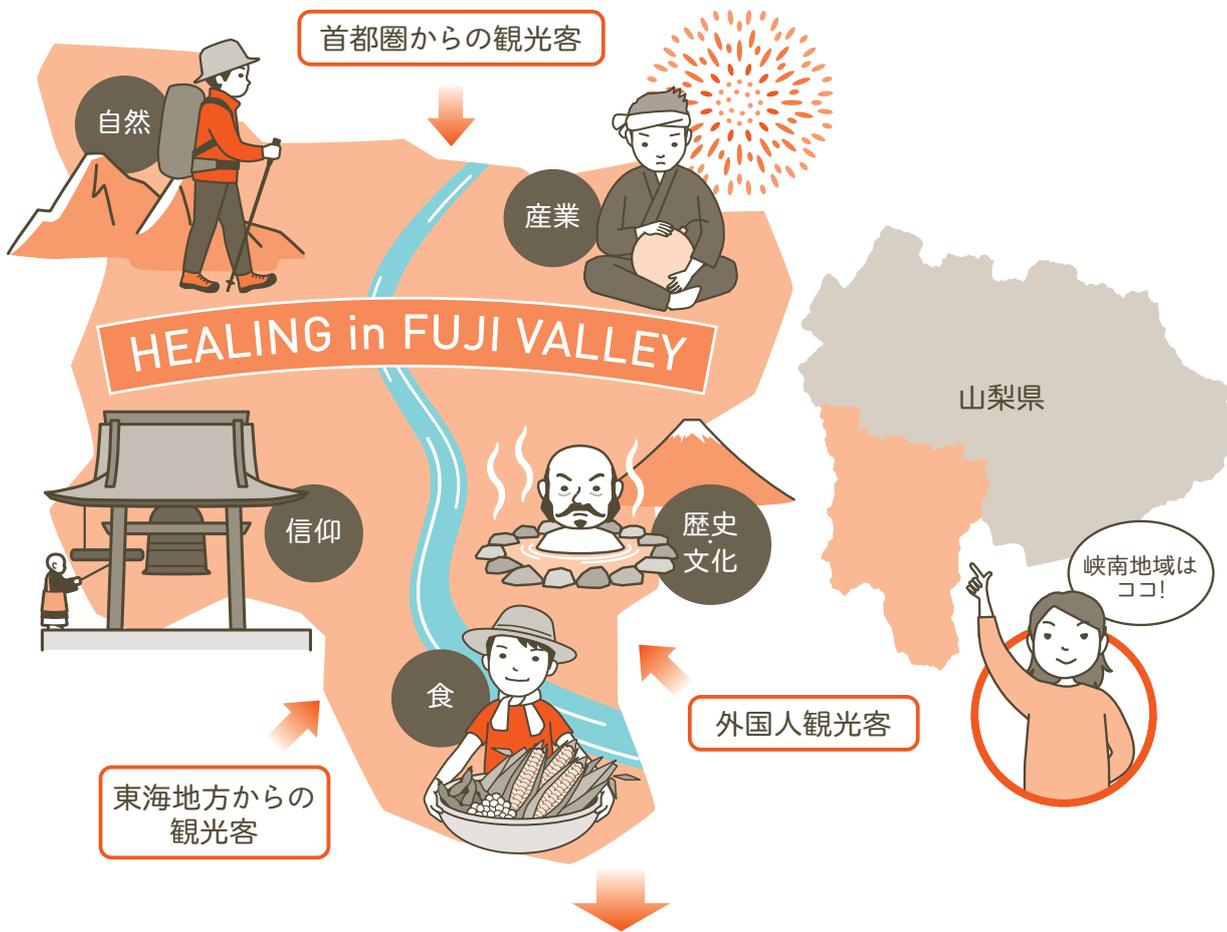
(左)WWFからの依頼で製作した弁当箱と箸  
(右)ショッピングモールで使われているテーブル



木材に焼印されたFSC認証マーク



オリジナルブランド商品の中で人気の高いろうそく台



相乗効果による地域全体の活性化

中部横断自動車道山梨～静岡間開通から2年  
東海地方のゲートウェイ  
峡南地域がこれからアツくなるらしい？

中部横断自動車道の山梨～静岡間が開通したことで峡南地域への観光客が増えてきています。そこで、東海地方からの観光客が増えている峡南地域に、観光客を呼び込む取り組みを調べてみました。山梨県観光入込客統計調査によると、峡南地域は、県内5つの圏域（峡中、峡東、峡南、峡北、富士・東部）の中でも観光客数や宿泊者数が少なく、外国人宿泊者の比率も低い傾向にあるそうです。その一方で、同じ調査では訪れた観光客の満足

中部横断自動車道が静岡まで開通しましたね。

はい。峡南地域が東海地方のゲートウェイ(玄関口)になって中京圏からのアクセスが飛躍的に向上し、地域活性化への期待が高まっています。

峡南地域の活性化のために、県ではどんな取り組みをしていますか？

「峡南地域ネクスト共創会議」で、分野ごとに課題の解決や地域全体の発展につなげるための検討を始めています。今日はその中から観光分野について、皆さんと考えていこうと思います。

観光を通して峡南地域が活性化すれば山梨全体がもっと元気になりそうですね！

わたしたちがレポートを作成しました！

山梨県立大学 国際政策学部  
国際コミュニケーション学科 総合政策学科  
3年 佐野 里帆さん 4年 山本 一郎さん

この地域ならではの「文化」に着目して、今あるものをさらに磨き上げ、「ここにしかない価値」を生み出してほしいと思います。

地域が主体となって魅力的な観光地づくりをすることで、地域住民も地元を誇りを持てると思います。私たちも携わっていきたいです。

地域の皆さんと事業者、そして行政が一体となって取り組んでいる今回のケースがモデルとなり、他の地域にも広がることは山梨全体の活性化につながります。若い皆さんの声もぜひお聞かせください！



私が説明させていただきました！

CHECK!



観光資源課

課長補佐 須田 達弥さん

県が峡南地域5町と連携して立ち上げた「峡南地域ネクスト共創会議」での検討に基づき、峡南5町・県及び観光事業者が一体となって「峡南地域観光振興戦略」を策定しました。この戦略を羅針盤として、峡南地域全体が未来に向かって発展するための取り組みを進めます。

## 峡南地域観光振興戦略とは？

「自然と人が育んだ歴史文化・産業・信仰を体感できる滞在型観光地」を将来目標像とする3カ年（令和5年度から7年度まで）の計画です。富士川の名前を冠し、インバウンドにも訴求できる「HEALING in FUJI VALLEY（ヒーリングインフジ・バレー）」のコンセプトの下、地域資源（自然、産業、歴史文化、信仰、食）を最大限活用して観光振興を図ります。

度が最も高いという結果が出ています。峡南地域の魅力を広く知ってもらうことができれば、もっと多くの観光客が訪れ、宿泊する地域になるのではないのでしょうか？

そのためには広域的な視点で観光を盛り上げていくことが必要であり、今年3月に「峡南地域観光振興戦略」が策定されました。

戦略では、地域が一体となって峡南地域の価値を伝えるための地域ブランドの形成や、付加価値の高い観光商品の開発、観光情報の効果的なPRなどについて検討、実施していくそうです。

国内外から選ばれる観光地になり、住民が地域に誇りを持つとともに、新しいビジネスや雇用が創出されて地域全体が豊かになる、これが戦略で描く未来の峡南地域の姿なのです。

すでにサービスが開始されているシェアサイクルは、見どころが点在する峡南地域での移動にピッタリ。人気アニメとのコラボ企画も実施され若者にも注目されています。

そこですますますアツくなる峡南地域に期待しながら、私たちもこれからの地域観光に必要なことを考えてみました。

まず「この地域にしかない」という強みを生かすことです。地域の歴史や文化、食などの発信がその地域を訪れるきっかけになると思えました。

もう一つは「人のつながり」です。地域の心温まる人々のつながりの中に、観光客を迎え入れれば、リピーターも増えるのではないのでしょうか。

単独では効果が限定されることも、関係者が連携すれば相乗効果を生み出せると思います。峡南地域の活性化が県全体に広がっていくのが楽しみです！

ふれあい



やまなし

in depth

## 甲斐の国から世界に一撃を はばたけ！未来のトップアスリート

子どもを世界で活躍するアスリートに育てる「甲斐人の一撃」プロジェクトの狙いや取り組みについて  
やまなし in depth からダイジェスト版でお届けします。

国内、いや世界を相手に闘える人材を生み出す。

山梨県がそんな子どもを養成するプロジェクトを始動させている。プロジェクトのコードネームは「カイシンのイチゲキ」。戦闘ゲームでよく使われる言葉だ。どんなプロジェクトなのか。真相を探った。

### …「甲斐人の一撃」と書いて「カイシンのイチゲキ」

山梨学院大学の体育館で、小学生たちが走り、跳び、重いボールを投げていた。まさか、幼い頃から戦士を鍛え上げるといふことなのか。

「私が『カイシンのイチゲキ』を担当している雨宮祐太です」



「甲斐人の一撃」担当者の雨宮さん

現れた人物がこのプロジェクトの担当者だという。想像とはまるで違う、爽やかな青年だった。

「ここで選ばれている子どもは、将来オリンピックや国民体育大会での活躍が期待できるアスリートの卵です」

アスリート？

『「甲斐人の一撃」と書いて「カイシンのイチゲキ」と読みます。会心の一撃から付けたプロジェクト名です。山梨の子どもが、いつか世界に一撃を与えてほしいという願いを込めました」

### …コロナ禍の真っ只中だったから…

雨宮さんは県スポーツ協会から県庁スポーツ振興課に派遣。協会では競技力向上に関する業務を担当し、多くの選手を国内外の大会に送り出してきた。

「アスリートががんばる姿は本当に格好よくて、応援する楽しさを知りました。どうしたらオリンピックを発掘できるだろうかと考えた時に、小さい頃からさまざまな競技を体験してもらったことが大切だと思いました」

県庁への派遣はコロナ禍の真っ只中。

国民体育大会や競技団体への激励など、各種イベントが実施できない状態だった。

「コロナ禍でイベントが開催できないので、課内で協議を重ねて企画を練り上げる時間がありました。コロナ禍でなければ、この事業は生まれなかったかもしれません」

指導者や練習環境の整った競技団体と調整を進めて賛同を得て、2022年8月に1期生の選抜にこぎ着けた。感覚神経が発達する世代（ゴールデンエイジ）にあたる小学5年生を体力測定し、1期生20人程度を選抜。その上で競技を体験できるスキルアップ教室や、基礎能力を向上させるための実技・座学を行う合宿を開催している。

### …二刀流どころか三刀流も可能なマルチアスリートに

実は、アスリートの卵を発掘する事業は山梨県が先進例というわけではない。雨宮さんが参考にした「先進県」は福岡と岩手、山形だった。

岩手の1期生には、北京オリンピック、スキージャンプ男子ノーマルヒル金メダリストの小林陵侑選手がおり、福岡、岩手、山形はいずれも「種目適性型」というシステムを採用していた。

種目適性型では、一つの種目に絞って才能を伸ばすのではなく、子どもがさまざまな種目を体験した上で自分に合った競技を探す・選択するという。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

「壁にぶつかっても、マルチアスリートは転向できる強みがある。二刀流どころか三刀流だって可能かもしれない。そんなスペシャルな能力を持つ子どもを支えていきたい」

「甲斐人の一撃」が種目適性型になった理由を雨宮さんはそう明かす。

県はプロジェクトを成功させるため、組織を立ち上げた。メンバーは競技団体の関係者、県内の大学教授、スポーツドクターやトレーナーらで、子どもの育成戦略や体験競技選びなど、未来のアスリートのために議論する場となっている。

### \*\*\*スポーツを科学してメニューを決める

23年1月中旬、合宿が行われた。メニューの一つ「コンディショニング調整」では、健康科学大学の粕山達也・理学療法学科長が登壇。競技特性に応じて、疲労しやすい筋肉や負担がかかる関節などを解説し、具体的なストレッチの方法を教えた。

子どもを支える保護者向けのプログラムもあった。栄養面やアスリートを育成するに当たって大人が意識しておくべきことなどについて、保護者は専門家の講義を聞いていた。

合宿の目玉は、山梨が輩出したトップアスリートとの交流だ。

2020東京オリンピックに出場したレスリングの乙黒圭祐・拓斗兄弟が実際に指導した。拓斗選手が金メダル(男

子フリースタイル65キログ)を見せると、子どもは興味津々だった。雨宮さんは「乙黒兄弟は、こういうプログラムなら今後も協力したいと言ってくれました。心強いです」と話す。

### \*\*\*23年度は20人が10競技にチャレンジ

2期生の選抜に向けて1月に開かれた体力測定会には、県内全域から約80人の小学4年生が参加し、身長・体重、20メートル走など5つの測定項目に挑戦した。

測定結果だけでなく、測定の際に垣間

見られたスキルなどの要素を加味して選んでいる。選考基準にもスポーツ科学が生かされているのだ。

こうした選考の末、23年度の「未来のトップアスリート候補」は20人が選ばれた。

1期生はウエイトリフティング、ホッケー、レスリング、カヌーの4競技にチャレンジしたが、23年度はバージョンアップ。ライフル射撃、スポーツクライミング、ラグビー、アーチェリー、アイスホッケー、ハンドボールを加えた10競技に挑戦することになった。

「山梨県からオリンピックが育ってほしいと思っていますが、厳しい世界なので全員がオリンピックになれるわけではありません。オリンピックを目指すだけでなく、この甲斐人の一撃プロジェクトを通じて、子どもが人間力を高めてもらえたらうれしいです」(雨宮さん)

価値観が多様化し、生き方も多様になった。オリンピックを目指すのも「あり」だ。果たして、この選抜メンバーから世界を相手にするアスリートは出てくるのだろうか。数年後、結果が出る。



応援に来た乙黒圭祐選手(中央白の服、左)と拓斗選手(同、右)

やまなし in depth  
フルバージョンはこちらから



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



商品提供: 割烹みつい

「富士の介の生の切り身(約100g×4切セット)」抽選で**5名**の方に!

「おいしい未来へ やまなし」については、  
県ホームページをご覧ください。

おいしい未来へ やまなし



多言語翻訳や音声読み上げに対応したデジタルブック

カタログポケット



「ふれあい」の誌面をパソコン、スマートフォン、タブレットでそのまま  
ご覧いただけます。

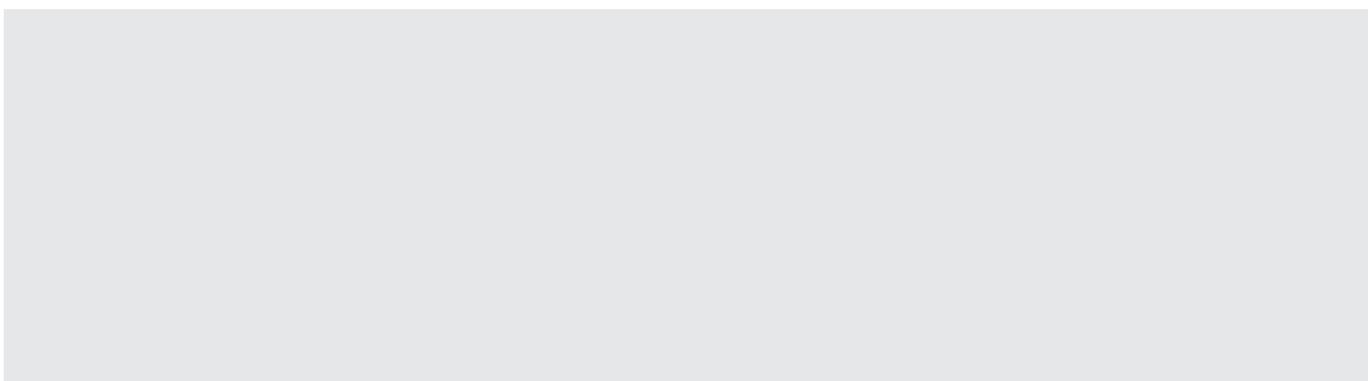
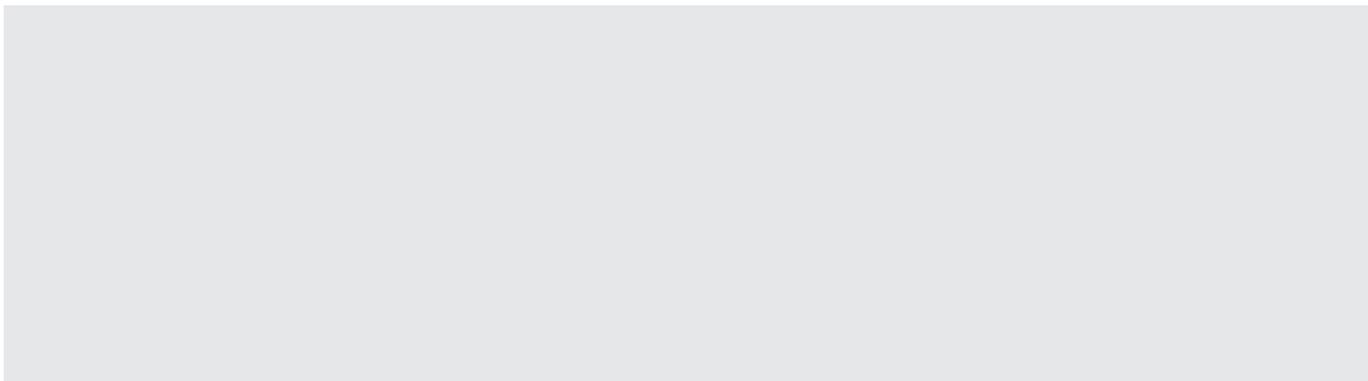
《FUREAI》杂志的电子版可以在智能手机或者平板电脑客户端浏览。  
(中国語・簡)

You can now read pages from Fureai directly on your  
smartphone, tablet, and other devices. (英語)

県政情報発信中!

<p>県ホームページ</p>	<p>Facebook</p>	<p>Twitter</p>	<p>YouTube</p>	<p>広報番組</p>	<p>広報誌</p>
----------------	-----------------	----------------	----------------	-------------	------------

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



アンケートに答えて応募しよう!

次の①～⑤とアンケートにご回答ください。応募は「はがき」または「応募フォーム」をお願いします。  
①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号

●アンケート

問1: 今号の中で最も関心を持った内容とその理由は?  
問2: 富士山登山鉄道構想についてどう思いますか?  
※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

●応募先

山梨県広聴広報グループ  
「ふれあい読者プレゼント」係  
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1



応募フォームは  
こちら

●締め切り

8月31日(木)(当日消印有効)

賞品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。個人情報  
は賞品の発送のほか、県からのお知らせなどのために、使用させていただ  
くことがあります。

スマートフォンで「ふれあい」をもっと身近に

スマートフォン専用サイト



「ふれあい」の誌面をスマートフォン専用の  
ウェブサイトでもご覧いただけます。言語切  
り替えが可能で、ページが縦と横にスク  
ロール表示されるので、スマートフォンで読  
みやすくなっています。



やまなしの県有林は、森林管理  
認証を取得し、世界的な基準で  
豊かな森づくりを行っています。



やまなし森の印刷紙  
この印刷紙には、FSC®森林管理  
認証を取得した山梨県有林から  
の木材が使用されています。